岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 743 集

サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

２０２４

（公財）岩手県文化振興事業団

サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路事業に関連して令和３・４年度に発掘調査を行ったサンニヤⅢ遺跡の調査成果をまとめたものです。

今回の調査によってサンニヤⅢ遺跡は縄文時代の狩猟場などに利用されていたことが確認され、往時の様々な環境を考える上での貴重な資料を得ることができました。

本書が広く活用され､埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和６年３月

公益財団法人岩手県文化振興事業団
理事長　石　田　知　子

例　言

1　本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第25地割40番地ほかに所在するサンニヤⅢ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2　本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課との協議を経て、三陸国道事務所の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3　岩手県遺跡台帳における遺跡コードと今回の調査における遺跡略号は以下のとおりである。

遺跡コード：ＩＦ48-2250

遺 跡 略 号：ＳＮⅢ－21（令和３年度）・ＳＮⅢ－22（令和４年度）

4　発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。

令和３年度

調 査 期 間：令和３年10月５日～12月15日 調査面積：1,882㎡

担　当　者：溜 浩二郎・八木勝枝

令和４年度

調 査 期 間：令和４年４月７日～８月10日　調査面積：5,242㎡

担　当　者：溜 浩二郎・福島正和・村田 淳・袖林 清

5　室内整理期間・担当者は以下のとおりである。

令和３年度

整 理 期 間：令和４年１月17日～令和４年３月31日

担　当　者：溜 浩二郎・高木 晃

令和４年度

整 理 期 間：令和４年９月１日～９月30日、同12月１日～令和５年３月31日

担　当　者：溜 浩二郎・村田 淳

6　本報告書の執筆は、第Ⅰ章を国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、他は溜が行った。

7　遺構図中で記載した座標値は平面直角座標第Ｘ系（世界測地系）に基づく。

8　土層の記載には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。

9　各種委託業務は次の機関に委託した。

石材・石質鑑定：花崗岩研究会

基準点測量：有限会社測量設計サカイ

航空写真撮影：水沢ラジコン

10　調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

11　これまでに、調査成果の一部を当埋蔵文化財センターのホームページ、調査概報等で公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経緯……1

Ⅱ　位置と環境……1

1　遺跡の位置と立地……1
2　周辺の地形……1
3　周辺の遺跡……4
4　基本層序……7

Ⅲ　野外調査と室内整理……8

1　野外調査……8
(1) 野外調査の経緯と経過……8
(2) グリッド設定……8
(3) 基準点の設定……10
(4) 粗掘と遺構検出……10
(5) 遺構の名称……10
(6) 遺構の精査と実測……10
(7) 写真撮影……11
2　室内整理……11
(1) 遺構図面の整理……11
(2) 遺物の整理……11
(3) 掲載図……11
(4) 写真撮影と整理……11

Ⅳ　調査成果……15

1　概要……15
2　検出遺構……15
(1) 陥し穴状遺構……15
(2) 土坑……19
(3) 集石遺構……20
(4) 炭窯……20
3　出土遺物……32
(1) 土器……32
(2) 石器……32

Ⅴ　総括……34

報告書抄録……49

図版目次

第１図　遺跡位置図 ……2
第２図　遺跡周辺の地形 ……3
第３図　調査区と周辺の地形図 ……3
第４図　周辺の遺跡 ……5
第５図　基本層序 ……7
第６図　グリッド配置図 ……9
第７図　遺構配置図（全体図）……12
第８図　遺構配置図（北側調査区）……13
第９図　遺構配置図（南側調査区）……14
第10図　１～３号陥し穴状遺構 ……24
第11図　４・５号陥し穴状遺構 ……25
第12図　６～８号陥し穴状遺構 ……26
第13図　９～11号陥し穴状遺構 ……27
第14図　12～14号陥し穴状遺構 ……28
第15図　15～17号陥し穴状遺構 ……29
第16図　１～４号土坑 ……30
第17図　５・６号土坑、１号集石遺構 ……31
第18図　１号炭窯 ……32
第19図　出土遺物 ……33

表目次

第１表　周辺遺跡一覧 ……6
第２表　陥し穴状遺構一覧 ……21～23
第３表　縄文土器観察表 ……33
第４表　石器観察表 ……34

写真図版目次

写真図版１　航空写真１ ……37
写真図版２　航空写真２ ……38
写真図版３　航空写真３ ……39
写真図版４　調査区、基本層序 ……40
写真図版５　１～４号陥し穴状遺構 ……41
写真図版６　５～８号陥し穴状遺構 ……42
写真図版７　９～12号陥し穴状遺構 ……43
写真図版８　13～16号陥し穴状遺構 ……44
写真図版９　17号陥し穴状遺構、１～３号土坑 ……45
写真図版10　４～６号土坑、１号炭窯 ……46
写真図版11　１号集石遺構、調査区、作業風景 ……47
写真図版12　出土遺物 ……48

Ⅰ　調査に至る経緯

サンニヤⅢ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路（侍浜～階上）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、令和3年4月22付け国東整陸調第3号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化財課総務課長あてに周知の埋蔵文化財包蔵地の取扱い協議を依頼し、令和3年6月22日付け教生第462号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所）

Ⅱ　位置と環境

1　遺跡の位置と立地

サンニヤⅢ遺跡が所在する洋野町は、岩手県沿岸部最北端に位置し、南は久慈市、西は軽米町、北は青森県三戸郡階上町に隣接する。平成18年1月1日に旧種市町と旧大野村が合併し、総面積は302.92㎡、総人口は15,717人（令和3年12月31日時点）を数える。町域の現況は山林が210.70㎡と町域の約7割を占め、標高100mを境に西部高原地域と東部海岸地域に区分されている。夏季、西部高原 地域は東部海岸地域と比較して気温が4～5℃高く、東部海岸地域は春から夏に顕著なやませ（偏東 風）の影響で濃霧が発生し、湿度が高く日照時間が短い特徴がある。

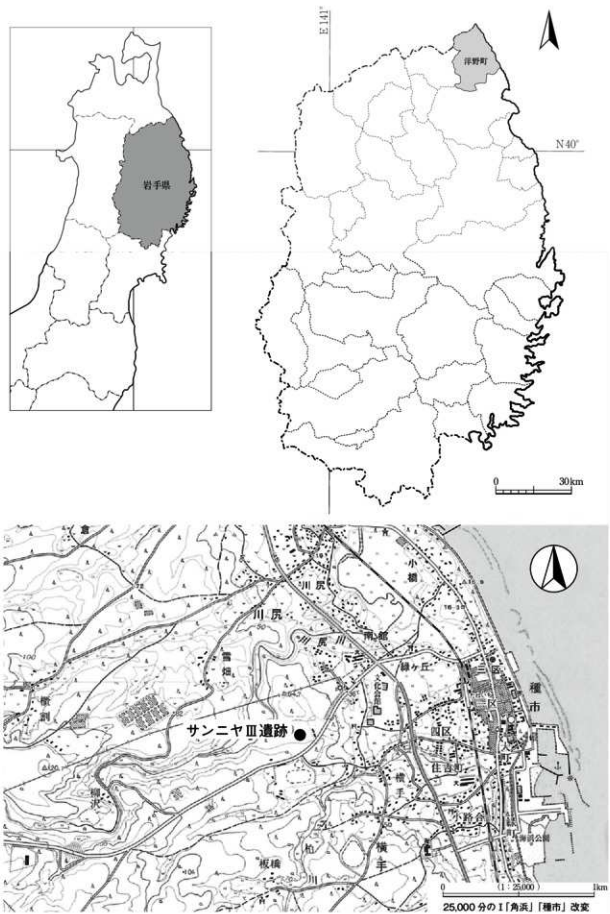
サンニヤⅢ遺跡は、ＪＲ八戸線種市駅から西方に約1.2km、川尻川右岸の標高約62m前後に立地する。北緯40°24′26″、東経141°42′9″付近に位置する。川尻川は遺跡から直線距離約1.65kmで河口となる。地図上では、国土地理院発行2万5千分の1地形図「種市」ＮＫ-54-18-6-2に含まれる。

2　遺跡周辺の地形

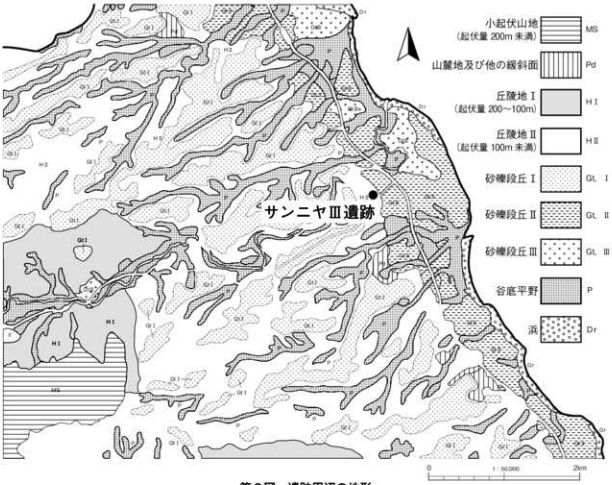
サンニヤⅢ遺跡周辺の旧種市町は、軽米町・旧大野村との町境をなす階上岳（種市岳740.1m）、久慈平岳（706.3m）及び海成段丘によって形成された南北に連なる地形配列・表層地質をなしている。

海成段丘は、海側の低い段丘から順に種市段丘・白前段丘で、現在の国道45号線は種市段丘上の白前段丘接点近くに南北に作られ、三陸沿岸道路はより高位面にあたる白前段丘上に建設されている。

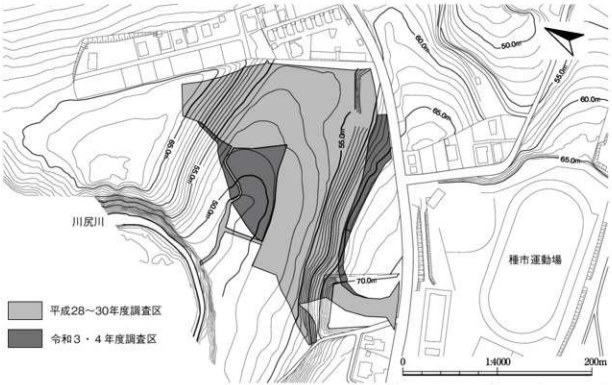
サンニヤⅢ遺跡は川尻川右岸の低位丘陵地にあり、周辺を砂礫段丘や谷底平野に囲まれた地形である。


岩手県
E141°
N40°
洋野町
0
30km
サンニヤⅢ遺跡
川尻
川尻川
雪畑
小槻
種市
住吉町
柏
板橋
0
(1：25,000)
1km
25,000 分の1「角浜」「種市」改変

第1図　遺跡位置図



第２図　遺跡周辺の地形



第３図　調査区と周辺の地形図

3　周辺の遺跡（第4図、第1表）

令和3年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録されている洋野町内の遺跡は243遺跡である。そのうち、サンニヤⅢ遺跡近隣の44遺跡を抽出したものが第4図である。ここでは、図に示した遺跡をもとに縄文時代から中世の各時代を概観する。

縄文時代の集落跡は、西平内Ⅰ遺跡（2）、石倉遺跡（16）、南川尻遺跡（22）、サンニヤⅠ遺跡（24）、板橋Ⅱ遺跡（30）、ゴッソー遺跡（32）、北鹿糠遺跡（35）、南鹿糠Ⅰ遺跡（38）、鹿糠浜Ⅰ遺跡（40）、北玉川Ⅰ遺跡（42）が挙げられ、後期前半の集落跡が多い傾向が窺える。狩猟場は、西平内Ⅰ遺跡、平内Ⅱ遺跡（3）、南川尻遺跡、サンニヤⅠ遺跡、サンニヤⅢ遺跡（25）、板橋Ⅱ遺跡、荒津内遺跡（31）、ゴッソー遺跡、北鹿糠遺跡、板橋Ⅰ遺跡（36）、南鹿糠Ⅰ遺跡、鹿糠浜Ⅰ遺跡、北玉川Ⅰ遺跡が挙げられるが、複数の遺跡が集落跡との複合的な要素を併せ持つ遺跡である。他にこれらと種別が異なる要素を持つ遺跡として西平内Ⅰ遺跡で後期前半の配石遺構と整地層が確認されている。

弥生時代の遺跡で集落跡は、平内Ⅱ遺跡で弥生時代前期の竪穴住居2棟、北玉川Ⅰ遺跡で弥生時代中期の竪穴住居4棟が確認されている。

古代の遺跡は、北平内Ⅱ遺跡（8）、石倉遺跡、サンニヤⅠ遺跡、サンニヤⅡ遺跡（26）、横手遺跡（27）、荒津内遺跡、大久保遺跡（37）の各遺跡で土師器片が採取されている。近年の調査においては鹿糠浜Ⅰ遺跡で飛鳥～奈良時代の竪穴住居2棟が確認されている。

中世の遺跡は南館（23）、小手野沢館（28）、板橋館（34）の城館跡で堀・郭などが確認されている。

第Ⅱ章に関わる引用・参考文献

岩手県教育委員会発行

2016『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度 復興関係）』岩手県文化財調査報告書第146集

（公財）岩手県文化振興事業団発行

1996『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集

2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集

2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

2018『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集

2018『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集

2020『サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第714集

2021『鹿糠浜Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第727集

2021『北玉川遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第728集

2021『板橋Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第729集

種市町教育委員会発行

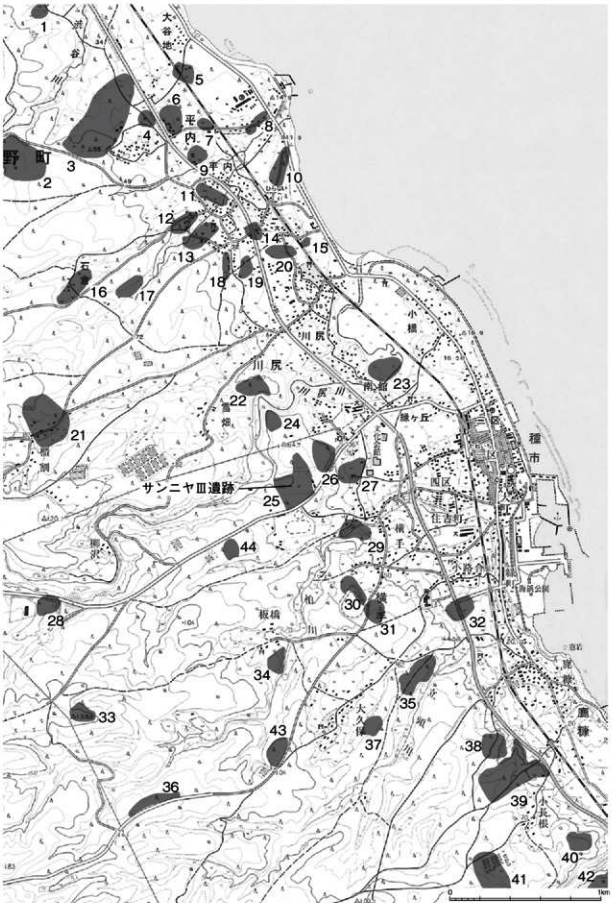
2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第1集

洋野町教育委員会発行

2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集

2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集

2017『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集



25,000 分の 1「角浜」「種市」改変

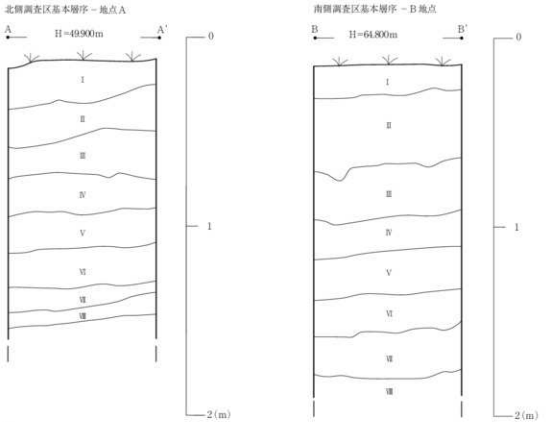
第４図　周辺の遺跡

第１表　周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	時代	出土遺物等	備　考
1	笹花Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	平成23年度新規発見
2	西平内Ⅰ	集落跡・狩猟場	縄文	配石遺構、竪穴住居、陥し穴状遺構、縄文土器（後期）、石斧、剥片	岩埋文報第673集（2017）・洋野町教委報第９集（2017）
3	平内Ⅱ	散布地	縄文・弥生・近世	縄文土器（中期末～後期前葉）、弥生土器（前期後葉）、石器、鉄製品他	種市町教委報第１集（2004）・洋野町教委報第１集（2013）・洋野町教委報第２集（2015）
4	北平内Ⅴ	散布地	縄文・弥生・近世	縄文土器（後期～晩期）、弥生土器（前期）	平成23年度新規発見
5	北平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、石斧、礫器	平成23年度新規発見
6	北平内Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、剥片	平成23年度新規発見
7	北平内Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	平成23年度新規発見
8	北平内Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	平成23年度新規発見
9	北平内Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器、石斧、敲石	平成23年度新規発見
10	浜平内	散布地	縄文	縄文土器（早期・晩期）、石斧、敲石	平成23年度新規発見
11	平内Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、剥片	平成23年度新規発見
12	平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（前期・中期）、剥片	
13	平内Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（中期）、磨石	
14	平内Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、石斧、礫器	平成23年度新規発見
15	南平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（晩期）、製塩土器	平成23年度新規発見
16	石倉	集落跡	縄文・古代	縄文土器（後期）、敲石、礫器、土師器	
17	東平内Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	平成23年度新規発見
18	東平内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、石斧、敲石、礫器、剥片	平成23年度新規発見
19	南平内Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器、剥片	平成23年度新規発見
20	南平内Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、剥片石器	平成23年度新規発見
21	懸鏡	散布地	縄文	石棒	
22	南川尻	散布地	縄文	縄文土器、石器	岩埋文第647集（2015）
23	南館	城館跡	中世	堀跡	昭和59年度調査
24	サンニヤⅠ	集落跡・狩猟場	縄文・古代	竪穴住居、土坑、陥し穴状遺構、縄文土器、土師器	岩埋文第687集（2018）
25	サンニヤⅢ	狩猟場	縄文	陥し穴状遺構、土坑、縄文土器、石器	岩埋文第714集（2020）
26	サンニヤⅡ	集落跡	古代	竪穴住居、土坑、縄文土器、土師器	岩手県教育委員会第146集（2016）
27	横手	散布地	縄文・古代	縄文土器（晩期）、土師器	
28	小手野沢館	城館跡	中世	堀跡、郭	昭和59年度調査
29	トチの木	散布地	縄文	縄文土器（後期・晩期）	
30	板橋Ⅱ	集落跡・狩猟場	縄文	竪穴住居、土坑、陥し穴状遺構、縄文土器（後期）	岩埋文第729集（2021）
31	荒津内	散布地・狩猟場	縄文	陥し穴状遺構、土坑、焼土遺構、土師器	岩埋文第701集（2019）
32	ゴッソー	集落跡	縄文	竪穴住居、土坑、縄文土器（早期～晩期）、製塩土器、弥生土器	岩埋文第230集（1996）・岩埋文報第357集・（2001）・洋野町教委報第３集（2017）
33	たけの子	散布地	縄文	縄文土器（後期・晩期）、製塩土器	
34	板橋館	城館跡	中世	単郭、堀跡	昭和59年度調査
35	北鹿櫛	集落跡・狩猟場	縄文	竪穴住居、陥し穴状遺構、縄文土器、石器	岩埋文報第686集（2018）
36	板橋Ⅰ	狩猟場	縄文	陥し穴状遺構	平成29年度新規発見
37	大久保	散布地	縄文・古代	縄文土器（前期・後期・晩期）、石斧、土師器	
38	南鹿櫛Ⅰ	集落跡・狩猟場	縄文	竪穴住居、陥し穴状遺構、縄文土器（早期・前期）	岩埋文報第697集（2019）
39	鹿櫛浜Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、石器	岩埋文報第702集（2019）
40	鹿櫛浜Ⅰ	集落跡・狩猟場	縄文・古代	竪穴住居、土坑、陥し穴状遺構、縄文土器、土師器、石器	岩埋文報第727集（2021）
41	鹿櫛浜Ⅲ	散布地	縄文	陥し穴状遺構	平成29年度新規発見
42	北玉川Ⅰ	集落跡・狩猟場	縄文・弥生	竪穴住居、土坑、陥し穴状遺構、縄文土器、弥生土器、石器	岩埋文報第728集（2021）
43	板橋Ⅲ	散布地	縄文	土坑	令和元年度新規発見
44	板橋Ⅳ	散布地	縄文	溝状土坑、縄文土器、石器	令和元年度新規発見

4　基　本　層　序（第５図、写真図版４）

調査区が大きく南北２カ所に分かれているため、北側調査区はⅣＣ１ｆグリッドの北壁面（Ａ地点）、南側調査区はⅦＦ４ｅグリッド南壁面（Ｂ地点）の各地点で土層の観察を行い、それぞれ遺構検出および遺物取り上げ時の指標とした。層序は上位からⅠ～Ⅷ層に大別される。遺構検出面は、基本層序Ａ地点付近がⅥ層、Ｂ地点付近がⅣ層の各上面である。



基本層序-地点Ａ

Ａ－Ａ'

Ⅰ　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや強（10YR3/1に近い色調）

Ⅱ　10YR2/1 黒色シルト 粘性やや弱 しまり中

Ⅲ　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 にぶい黄橙色粒（径２～３mm）１％含む

Ⅳ　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中

Ⅴ　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト（10YR5/6）ブロックで１％未満含む 層全体に明黄褐色浮石粒（10YR7/6 径１～２mm）１～２％含む

Ⅵ　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりやや強 浮石粒（10YR7/6 径３mm）１％含む

Ⅶ　10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性やや弱 しまり強 浮石粒（10YR7/6 径３～５mm）60～70％混入

Ⅷ　2.5YR7/4 浅黄色 砂 粘性やや弱 しまり強

基本層序-地点Ｂ

Ｂ－Ｂ'

Ⅰ　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりやや強 植物根多く含む（現表土）

Ⅱ　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや強 径１～２mmの浮石粒微量含む

Ⅲ　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径２～３mmの浮石粒を含んだ黒褐色シルト（10YR3/2）10％含む

Ⅳ　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 径２～３mmの浮石粒20～80％含む

Ⅴ　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強 しまり強 径２～３mmの浮石粒50％含む

Ⅵ　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 径１～３mmの浮石粒２～３％含む

Ⅶ　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり強 径２～５mmの浮石粒１％含む

Ⅷ　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 径５～８mmの礫粒２～３％含む

0　1：20　1m

第５図　基本層序

Ⅲ　野外調査と室内整理

1　野　外　調　査

（1）野外調査の経緯と経過

令和３年度

10月５日　調査を開始した。
10月６日　雑物撤去作業を行った。（～７日）
10月７日　重機による盛土および旧表土の除去作業を開始した。
10月19日　調査区東側から順に人力による遺構検出および精査作業を開始した。
11月16日　航空写真撮影を実施した。
11月17日　終了確認を実施した。
11月19日　調査が終了した箇所から重機による埋戻し作業を開始した。
11月30日　全体の調査が完了した。
12月15日　重機による埋め戻し作業が終了した。

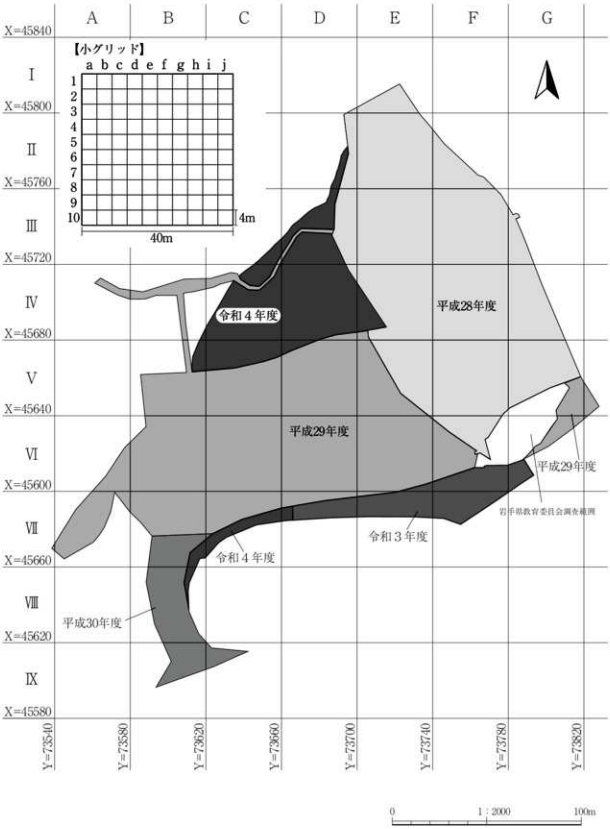
令和４年度

４月７日　調査を開始した。
４月８日　北側調査区において人力によるトレンチを開始した。
４月12日　北側調査区において重機による除去作業を開始した。
４月14日　北側調査区において人力による遺構検出作業を開始した。
６月21日　南側調査区において重機による盛土および表土の除去を開始し、順次人力による遺構検出作業を行った。
７月６日　北側調査区の部分終了確認を実施した。
７月26日　航空写真撮影を実施した。
７月28日　終了確認を実施した。
８月４日　調査が終了した箇所から重機による埋戻し作業を開始した。
８月10日　全体の調査が完了した。
８月15日　重機による埋め戻し作業が終了した。

（＊終了確認はいずれも委託者・岩手県教育委員会・埋文センターの３者による）

（2）グリッド設定

調査区画のグリッド設定にあたっては、今回実施する調査区が平成28～30年度に行われた調査区と隣接ないし、接続することから、これを使用した。平面直角座標第Ｘ系のＸ＝45840.000、Ｙ＝73540.000を遺跡の原点とし、座標原点を起点として、遺跡全体を一辺40×40ｍの大区画に区割りを行い、さらに大区画を４×４ｍの小区画に細分した。西から東側にアルファベットの大文字Ａ～Ｈ、北から南側にローマ数字Ⅰ～Ⅸを付した。小区画は西から東側にアルファベットのａ～ｊ、北から南側に数字の１～10を与えている。調査区の名称は、大区画と小区画の組み合わせでＩＡ１ａ、ＩＡ


A
B
C
D
E
F
G
X=45840
X=45800
X=45760
X=45720
X=45680
X=45640
X=45600
X=45660
X=45620
X=45580
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ
Ⅵ
Ⅶ
Ⅷ
Ⅸ
【小グリッド】
a b c d e f g h i j
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
4m
40m
令和４年度
平成28年度
平成29年度
平成29年度
岩手県教育委員会調査範囲
令和３年度
令和４年度
平成30年度
Y=73540
Y=73580
Y=73620
Y=73660
Y=73700
Y=73740
Y=73780
Y=73820
0
1：2000
100m

第６図　グリッド配置図

10 a というように呼称した。また、調査区についても今回の調査対象範囲が大きく南北２カ所に分かれていることから、それぞれの調査区を北側調査区、南側調査区のように呼称した。

（3）基準点の設定

調査にあたっては世界測地系による３級基準点と区割付杭の打設を測量業者に委託し、これを使用した。基準点１～４と区画点１～８の平面直角座標値および杭高（標高）は以下のとおりである。

〔令和３年度〕

基準点１	X = 45602.145	Y = 73786.232	H = 63.441
基準点２	X = 45528.063	Y = 73672.283	H = 69.921
区画点１	X = 45609.805	Y = 73771.997	H = 60.211
区画点２	X = 45595.203	Y = 73759.411	H = 63.050
区画点３	X = 45595.024	Y = 73714.610	H = 64.005
区画点４	X = 45589.923	Y = 73689.717	H = 64.691

〔令和４年度〕

基準点３	X = 45664.647	Y = 73624.839	H = 51.155
基準点４	X = 45712.572	Y = 73699.738	H = 52.235
区画点５	X = 45696.589	Y = 73622.544	H = 49.130
区画点６	X = 45747.934	Y = 73685.191	H = 52.009
区画点７	X = 45778.525	Y = 73693.854	H = 60.686
区画点８	X = 45526.556	Y = 73619.416	H = 71.404

＊座標値は平面直角座標第Ｘ系（世界測地系）によるものである。

（4）粗掘りと遺構検出

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課が実施した試掘結果に基づき、試掘掘削箇所に留意しながら調査を開始した。試掘結果を確認しながら重機を使用して粗掘りを行い、表土から遺構検出面上層まで掘り下げ、その後人力で遺構検出を行った。

（5）遺構の名称

遺構名は種別ごとに今回の調査で検出した順番の通し番号を付し、１号陥し穴状遺構、２号陥し穴状遺構…、１号土坑、２号土坑のように命名した。精査の結果、遺構でないと判断し、欠番となるものがあったため、整理段階で改めて通し番号を付し、これを正式な登録名とした。

（6）遺構の精査と実測

遺構精査は、二分法を原則とし、個々に断面による埋土の堆積状況の確認→完掘の順で写真撮影と図面作成を行った。断面図は人手、平面図は電子平板(株式会社ＣＵＢＩＣの遺構実測支援システム)によって記録を行った。遺構外の遺物はグリッドと出土層位を記録して取り上げた。

（7）写　真　撮　影

写真撮影は中判ＡＦ一眼レフカメラ（Mamiya 645AFD Ⅲ）１台とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS6D）１台で行った。撮影では、日付・遺構名などを記した撮影カードを写しこみ、室内整理作業に用いた。この他、調査終了時の令和３年 11 月 16 日と令和４年７月 26 日の２回に分けてラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を行った。

２　室　内　整　理

（1）遺構図面の整理

野外調査時に計測した電子平板（㈱キュービック「遺構くん」システム）のデータを用いて作図した平面図と、野外作業員が作図した断面図を遺構ごとに分類・点検後、デジタルによる作業を修正図（第二原図）作成→トレース→図版作成の順に行った。

（2）遺 物 の 整 理

出土遺物は洗浄を行い、種別毎に分類して袋に収め、袋毎に重量計測を行った。その後、遺物注記・接合作業を経て、本書掲載分と不掲載分に選別、掲載分は種別毎に仮番号を付して登録作業を行った。その後、実測・拓本、点検・修正、トレース作業を行い、図版を作成した。仮番号は最終的に掲載番号に付け替えた。

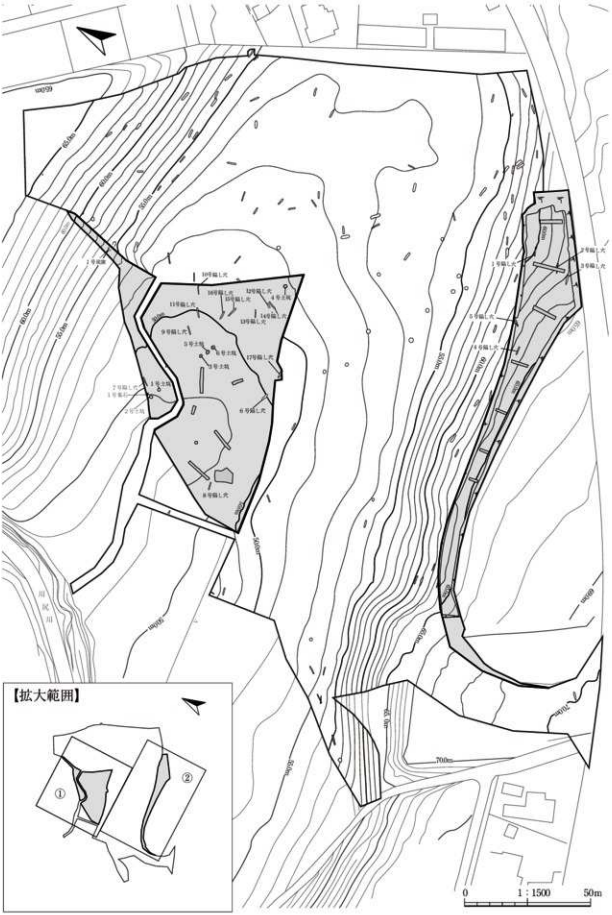
（3）掲　載　図

遺物実測図の掲載縮尺は土器 1/3、石器は大きさに応じて 1/3 ～ 2/3 とした。写真図版内の遺物の縮尺については不定である。

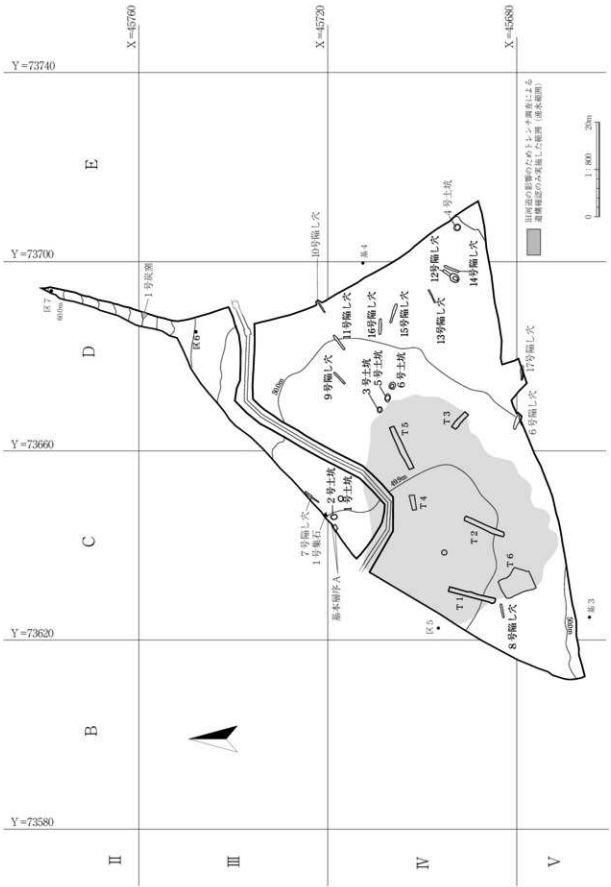
（4）写真撮影と整理

野外調査時の記録写真等は、中判ＡＦ一眼レフカメラ（Mamiya 645AFD Ⅲ）写真はネガとともにアルバムに貼付し、デジタル一眼レフカメラデータは遺構毎に個別フォルダにまとめデータを格納した。

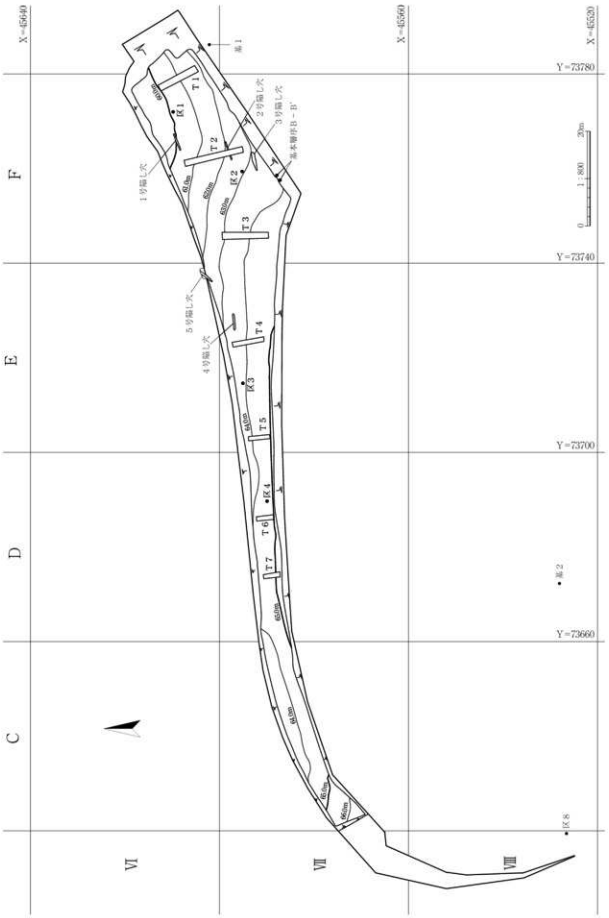
遺物写真は、当センター写真室にて撮影技師がデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS1 Mark Ⅱ）にて撮影した。撮影はＲＡＷモードで行い、印刷段階でＪＰＥＧに変換している。



第７図　遺構配置図（全体図）



第８図　遺構配置図（北側調査区）



第９図　遺構配置図（南側調査区）

Ⅳ 調 査 成 果

1 概　　要

遺跡は、九戸郡洋野町種市第25地割に所在し、川尻川右岸の標高52～65ｍ地点に立地する。遺跡中央部は谷底、南北端は傾斜面となっている。調査前の現況は北側調査区が雑木林、南側調査区が盛土造成等である。

今回の調査区は総面積7,124㎡で北側調査区が平成28年度調査区の西側、平成29年度調査区の北側に位置する谷底平坦地の4,674㎡、南側調査区が平成29年度調査区の南側、平成30年度調査区の東側に隣接する2,450㎡をそれぞれ対象としている。南側調査区は斜面に立地し、標高が59～65ｍ程で令和3年度に東側の1,882㎡、令和4年に西側の568㎡を調査した。調査区は全域が盛土造成地で、盛土下は造成の影響で削平を受けている状況であったため、遺構検出面まで重機で掘削し、その後人力による検出・精査・実測の順で作業を行った。

2 検 出 遺 構

検出遺構は、陥し穴状遺構17基、土坑6基、集石遺構1基、炭窯1基でこのうち陥し穴状遺構5基が令和3年度調査、他は令和4年度調査で検出した。このうち17号陥し穴状遺構は平成29年度に調査が行われ調査された67号陥し穴遺構の一部、また1号炭窯は平成28年度調査で検出した2号炭窯が東側に隣接しているため、この一部である可能性がある。

（1）陥し穴状遺構

今回の調査で17基検出した。内訳は北側調査区12基、南側調査区5基でいずれの遺構からも遺物は出土していない。

1号陥し穴状遺構（第10図、写真図版5）

南側調査区南東側、ⅥＦ８ｅ・８ｇグリッドに跨がって位置し、Ｂ－Ⅳ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－69°－Ｅに傾く。規模は開口部径378×34㎝、底部径379×12㎝、検出面から底面までの深さは63㎝を測る。埋土は自然堆積で３層に分かれ、全体に黒色シルトを主体とする層が堆積している。底面に凹凸はないが傾斜し、北東側が低い。また北東側端部はオーバーハングした形状を呈する。検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

2号陥し穴状遺構（第10図、写真図版5）

南側調査区南東側、ⅦＦ１ｆ・１ｇグリッドに跨がって位置し、Ｂ－Ⅳ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－70°－Ｅに傾く。規模は開口部径410×27㎝、底部径410×6㎝、検出面から底面までの深さは52㎝を測る。埋土は自然堆積で３層に分かれ、全体に黒色シルトを主体とする層が堆積している。底面は凹凸があり、傾斜している。北東側が低く、両端が上部壁面に対し、オーバーハング気味である。検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

３号陥し穴状遺構（第10図、写真図版５）

南側調査区南東側、ⅦＦ２ｅ・２ｆグリッドに跨がって位置し、Ｂ－Ⅳ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は長楕円形状を呈し、長軸方向はＮ－77°－Ｅに傾く。規模は開口部径404×69㎝、底部径287×17㎝、検出面から底面までの深さは97㎝を測る。埋土は自然堆積で５層に分かれ、上・下位は黒色シルト、中位は黒色シルトと暗褐色シルトの互層を呈する。底面はおよそ平坦であるがやや傾斜し、北東側が低い。長軸側の東西壁面はいずれも外傾して立ち上がるが、東壁に対して西壁の方がより緩い立ち上がりである。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

４号陥し穴状遺構（第11図、写真図版５）

南側調査区南東側、ⅦＥ１ｇ・１ｈグリッドに跨がって位置し、旧表土下のＢ－Ⅶ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－86°－Ｅに傾く。規模は開口部径334×37㎝、底部径359×14㎝、検出面から底面までの深さは100㎝を測る。埋土は自然堆積で５層に分かれ、上位は黒色シルト、中位は黒褐色シルト、下位は褐色シルトと黒色シルトを主体とする層が堆積している。底面は緩い凹凸や傾斜があり、中央部がやや低い。短軸側壁面は外傾～内湾気味に立ち上がる。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

５号陥し穴状遺構（第11図、写真図版６）

南側調査区南東側、ⅥＥ10ｊグリッドに位置し、Ｂ－Ⅶ層で検出した。北端部は調査区外へと延びる。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－40°－Ｅに傾く。調査で検出した規模は開口部径347×50㎝、底部径360×９㎝、検出面から底面までの深さは120㎝を測る。短軸側断面形状は瓢箪形を呈する。埋土は自然堆積で４層に分かれ、全体に黒色シルトを主体とし、下位に明黄褐色シルトを含む層が堆積している。底面は緩い凹凸と傾斜があり、北東側が低く、南西側壁面はオーバーハングしている。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

６号陥し穴状遺構（第12図、写真図版６）

北側調査区の南端、ⅣＤ10ｂ、ＶＤ１ｂグリッドに跨がって位置し、Ａ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－73°－Ｗに傾く。規模は開口部の長軸304×95㎝、底部径344×36㎝、検出面から底面までの深さは79㎝を測る。埋土は自然堆積で６層に分かれ、全体に黒褐色シルト主体とし、中位以下はにぶい明黄褐色シルトが混在する層が堆積する。底面は緩い凹凸があり、現況地形同様に傾斜し、北西側が低い。また、両端が上部壁面に対し、オーバーハングしている。短軸側壁面の断面形状はＹ字状を呈し、底面から中段までは垂直～内傾し、そこから開口部にかけては外傾して立ち上がる。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

７号陥し穴状遺構（第12図、写真図版６）

北側調査区の北端壁面付近のⅢＣ９ｈ・10ｈグリッドに跨がって位置し、Ａ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－39°－Ｅに傾く。規模は開口部の長軸373×41㎝、底部径359×12㎝、検出面から底面までの深さは68㎝を測る。埋土は自然堆積で３層に

分かれ、全体に黒色シルトを主体とする層が堆積する。底面は緩い凹凸はあるが、平坦に近く、傾斜は認められない。また、両端が中段壁面に対し、オーバーハングしている。短軸側壁面は外傾して立ち上がる。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

８号陥し穴状遺構（第12図、写真図版６）

北側調査区西側のⅣＣ10ｂグリッドに位置し、Ａ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－78°－Ｅに傾く。規模は開口部の長軸300×40㎝、底部径334×17㎝、検出面から底面までの深さは56㎝を測る。埋土は自然堆積で４層に分かれ、上・下位は黒色シルト、中位は黒褐色シルトを主体とする層が堆積する。底面は緩い凹凸はあるが、平坦に近く、傾斜は認められない。また、両端が開口部に対し、オーバーハングしている。短軸側壁面は外傾して立ち上がる。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

９号陥し穴状遺構（第13図、写真図版７）

北側調査区中央部のやや北東側、ⅣＤ１ｄ・１ｅグリッドに跨がって位置し、Ａ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－48°－Ｅに傾く。規模は開口部の長軸332×36㎝、底部径360×８㎝、検出面から底面までの深さは77㎝を測る。埋土は自然堆積で５層に分かれ、上～中位は黒～黒褐色シルト、下位は淡黄色シルト混じりの褐灰色シルトを主とする層が堆積する。底面は緩い凹凸や傾斜があり、南西側がやや低い。また、両端が開口部に対し、オーバーハングしている。短軸側壁面は底面から垂直気味に立ち上がり、開口部近くで外傾する。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

10号陥し穴状遺構（第13図、写真図版７）

北側調査区東端、ⅢＤ10ｈグリッドに位置し、Ａ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－33°－Ｗに傾く。規模は開口部の長軸282×24㎝、底部径268×９㎝、検出面から底面までの深さは75㎝を測る。埋土は自然堆積で５層に分かれ、上位は黒褐色シルト、中～下位は明黄褐色シルトおよび浮石粒混じりの黒褐～暗褐色シルト層が堆積する。底面にはやや凹凸や傾斜があり、南西側がやや低い。短軸側壁面は底面から垂直気味に立ち上がり、開口部近くで僅かに外傾する。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

11号陥し穴状遺構（第13図、写真図版７）

北側調査区中央よりやや北東側、ⅣＤ１ｆ・１ｇグリッドに跨がって位置し、Ａ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－52°－Ｅに傾く。規模は開口部の長軸382×42㎝、底部径347×12㎝、検出面から底面までの深さは80㎝を測る。埋土は自然堆積で６層に分かれ、上位は黒色シルト、中～下位はにぶい黄橙色シルトおよび浮石粒を伴う黒褐色シルト層が堆積する。底面全体に凹凸があり、中央付近～北東側がやや低い。短軸側壁面は底面から外傾気味に立ち上がる。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

12号陥し穴状遺構（第14図、写真図版７）

北側調査区の東側、ⅣＤ７ｊグリッドに位置し、Ａ－Ⅵ層で検出した。遺構の南側は撹乱による影響で一部が失われている。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－55°－Ｅに傾く。規模は開口部

の長軸側は北東側の残存部分で 187 ㎝、短軸は 52 ㎝を測る。底部径 397 × 18 ㎝、検出面から底面までの深さは 94 ㎝を測る。埋土は自然堆積で 8 層に分かれ、上位に南側の攪乱の影響のために地山由来の浅黄橙色シルトが混じる黒褐色シルトが堆積している。中位は黒～黒褐色シルトを主とし、壁面崩落土に浮石粒が混じる。下位には明黄褐色砂質シルト、その下～底面に砂混じりの黒色シルトが堆積している。底面には緩い凹凸があるが、傾斜はない。短軸側壁面は底面から外傾して立ち上がる。重複する攪乱の埋土から縄文土器の深鉢の底部破片が出土しており、これより古い時期に帰属する。

13 号陥し穴状遺構（第 14 図、写真図版 8）

北側調査区の東側、Ⅳ D 6 h ・ 6 i グリッドに跨がって位置し、A － Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はN － 65° － E に傾く。規模は開口部の長軸 310 × 19 ㎝、底部径 310 × 11 ㎝、検出面から底面までの深さは 46 ㎝を測る。埋土は自然堆積で 4 層に分かれ、上～中位は黒色シルトで一部暗褐色シルトが壁際に堆積している。下位はにぶい黄橙色シルト混じりの黒褐色シルト層が堆積する。底面には緩い凹凸がある。また中央～南西側が傾斜し、端部側がやや低くなっている。短軸側壁面は底面から外傾～内湾気味に立ち上がる。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

14 号陥し穴状遺構（第 14 図、写真図版 8）

北側調査区の東側、Ⅳ D 7 j グリッドに位置し、A － Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はN － 22° － E に傾く。規模は開口部の長軸 340 × 40 ㎝、底部径 332 × 8 ㎝、検出面から底面までの深さは 98 ㎝を測る。埋土は自然堆積で 6 層に分かれ、上・下位は黒～黒褐色シルト、中位は暗褐色シルトを主とし、上～中位に浮石粒が多く混入する。底面には緩い凹凸があり、北東側に向かって若干傾斜し、端部側がやや低くなっている。短軸側壁面は底面から外傾して立ち上がる。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

15 号陥し穴状遺構（第 15 図、写真図版 8）

北側調査区の東側、Ⅳ D 4 g ・ 4 h グリッドに跨がって位置し、A － Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はN － 71° － W に傾く。規模は開口部の長軸 420 × 56 ㎝、底部径 460 × 13 ㎝、検出面から底面までの深さは 74 ㎝を測る。埋土は自然堆積で 6 層に分かれ、黒～黒褐色シルトを主とし、黒褐色シルト層には浮石粒が多く混入する。底面には凹凸があり、北西側に向かって緩く傾斜し、端部側が低くなっている。また、南東側がオーバーハングした形状を呈する。短軸側壁面は底面から外傾して立ち上がり、開口部近くはやや開いた形状を呈する。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

16 号陥し穴状遺構（第 15 図、写真図版 8）

北側調査区の東側、Ⅳ D 3 g ・ 3 h グリッドに跨がって位置し、A － Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はN － 87° － W に傾く。規模は開口部の長軸 334 × 51 ㎝、底部径 355 × 15 ㎝、検出面から底面までの深さは 94 ㎝を測る。埋土は自然堆積で 4 層に分かれ、下から暗褐色シルト→黒色シルト→黒褐色シルト→黒色シルト層の順に堆積している。底面には凹凸があり、中央部付近がやや低くなっている。また、東側がオーバーハングした形状を呈する。短軸側壁面は底面から垂直気味に立ち上がり、中～上位にかけて外傾し、開いた形状を呈する。出土遺物はな

いが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

17 号陥し穴状遺構（第 15 図、写真図版９）

北側調査区の南側、ＶＤ１ｄ・１ｅグリッドに跨がって位置し、Ａ－Ⅵ層で検出した。遺構は平成 29 年度に調査した 67 号陥し穴遺構の一部である。平面形状は溝状を呈し、長軸方向はＮ－ 85°－Ｗに傾く。遺構全体の規模は開口部の長軸 315 × 49 ㎝、底部径 304 × 13 ㎝、検出面から底面までの深さは 93 ㎝を測る。埋土は自然堆積で５層に分かれ、上～中位は黒褐色シルト、下位は黒色シルトを主とする層が堆積している。底面には緩い凹凸があるが、全体に傾斜はしていない。短軸側壁面は底面から垂直に立ち上がり、中～上位にかけてはやや内湾気味に開口部へ開くＹ字状を呈する。出土遺物はないが、検出状況や埋土から帰属時期は縄文時代と考えられる。

（２）土　　坑

今回の調査で５基検出した。いずれも北側調査区からの検出で状況や出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

１号土坑（第 16 図、写真図版９）

北側調査区の北西側調査区境付近、ⅣＣ１ｈグリッドに位置し、表土下のＡ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は円形で規模は開口部径 117 × 102 ㎝、底部径 112 × 97 ㎝、検出面から底面までの深さは 34 ㎝を測る。底面も開口部とほぼ同じ形状を呈するが、一部が開口部に対してオーバーハングしている。また凹凸があり、平坦ではない。埋土は自然堆積で３層に分かれ、黒～黒褐色シルトを主とした層が堆積する。遺構内から遺物は出土していない。

２号土坑（第 16 図、写真図版９）

北側調査区の北西側調査区境付近、ⅣＣ１ｇグリッドに位置し、表土下のＡ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は歪な楕円形を呈し、規模は開口部径 127 × 95 ㎝、底部径 139 × 103 ㎝、検出面から底面までの深さは 34 ㎝を測る。底面も開口部とほぼ同じ形状を呈するが、一部が開口部に対してオーバーハングしている。埋土は自然堆積で２層に分かれ、上位は黒褐色シルト、中位以下は黒色および黒褐色シルト層と砂層が縞状の互層を呈する。遺構内から遺物は出土していない。

３号土坑（第 16 図、写真図版９）

北側調査区の調査区中央部、ⅣＤ３ｃグリッドに位置し、表土下のＡ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状はやや歪んだ楕円形を呈し、規模は開口部径 128 × 109 ㎝、底部径 96 × 63 ㎝、検出面から底面までの深さは 42 ㎝を測る。底面は中央付近が低く、壁面は底面から内湾気味に立ち上がり、開口部に向かって開いた形状を呈する。埋土は自然堆積で５層に分かれ、上～中位は黒色シルト、下位はにぶい黄褐色シルト、最下部に黒色シルトによる層が堆積する。遺構内から縄文土器の小片が１点出土した。時期は出土遺物から縄文時代であるが詳細は不明である。

４号土坑（第 16 図、写真図版 10）

北側調査区の調査区東端、ⅣＥ７ｂグリッドに位置し、表土下のＡ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は円形を呈し、規模は開口部径 141 × 136 ㎝、底部径 110 × 94 ㎝、検出面から底面

までの深さは71㎝を測る。底面には凹凸があり、中央付近がやや低い。壁面は底面から垂直気味に立ち上がり、中段付近から外傾し、開口部に向かって開いた形状を呈する。埋土は自然堆積で5層に分かれ、全体に黒～黒褐色シルトを主とする層が堆積し、層中に浮石粒が多く含まれる。遺構内からの出土遺物はない。

5号土坑（第17図、写真図版10）

北側調査区の中央部、ⅣＤ４ｃグリッドに位置し、表土下のＡ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は楕円状を呈し、規模は開口部径178×111㎝、底部径104×87㎝、検出面から底面までの深さは84㎝を測る。底面は平坦で、一部がオーバーハングした形状を呈する。壁面は底面からおよそ垂直気味に立ち上がり、開口部付近で開いた形状を呈する。埋土は自然堆積で6層に分かれ、上位中央に全体に黒～黒褐色シルトを主とし、上位中央部に浮石粒、下位に黄色系シルトが多く含まれる。遺構内からの出土遺物はない。

6号土坑（第17図、写真図版10）

北側調査区の中央部、ⅣＤ４ｄグリッドに位置し、表土下のＡ－Ⅵ層で検出した。重複遺構はない。平面形状は歪んだ楕円状を呈し、規模は開口部径148×130㎝、底部径90×68㎝、検出面から底面までの深さは103㎝を測る。底面は中央がやや低くなっている。壁面は底面からおよそ垂直気味および内湾気味に立ち上がり、中段～開口部に向かって開いた形状を呈する。埋土は自然堆積で5層に分かれ、上位に明黄褐色シルト粒を多く含む黒褐色シルト層、以下は黒色シルトを主とした層が堆積している。遺構内からの出土遺物はない。時期は検出状況等から縄文時代と推定されるが詳細は不明である。

（3）集　石　遺　構

北側調査区において1基検出した。検出状況から縄文時代に属するものと推定される。

1号集石遺構（第17図、写真図版11）

北側調査区の北西、ⅢＣ10ｇグリッドに位置し、Ａ－Ⅴ層の掘り下げ段階で検出した。重複遺構はないが遺構を構成する礫の範囲が調査区外へと続いている可能性がある。礫の一部が周辺に散在するが、計23個の礫を約86×62㎝の範囲で検出した。礫の下に施設等を確認できる掘り込みはなく、礫を埋め込むための掘り方もない。また遺構内および周辺から出土した遺物や炭化物はない。

（4）炭　窯

北側調査区の北端斜面部で1基検出した。

1号炭窯（第18図、写真図版10）

北側調査区の北端斜面部、ⅢＤ１ｈグリッドに位置し、表土除去後の地山面で検出した。重複遺構はない。遺構東側が調査区外へと続いており、その延長上に平成28年度調査で検出した2号炭窯が存在することから、これと同一遺構である可能性が高い。また、遺構の西・南側は削平のため残存しない。床面に炭化物の広がりを確認した。遺構内からの出土遺物はない。時期は検出状況等から近代以降と推測されるが詳細は不明である。

第２表　陥し穴状遺構一覧

遺構名		１号陥し穴状遺構	２号陥し穴状遺構	３号陥し穴状遺構
位置(グリッド)		Ⅶ F８e・８g	Ⅶ F１f・１g	Ⅶ F２e・２f
検出状況(層位)		B－Ⅳ	B－Ⅳ	B－Ⅳ
重複遺構		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	長楕円形状
	断面	V字状	V字状	Y字状
規模(cm)	開口部径	378×34	410×27	404×69
	底部径	379×12	410×6	287×17
	深さ	63	52	97
長軸方向		N－69°－E	N－70°－E	N－77°－E
堆積土		全体に黒色シルトを主体とする層	全体に黒色シルトを主体とする層	上・下位は黒色シルト、中位は黒色シルトと暗褐色シルトの互層
底面の特徴		北東側が20cm低く、オーバーハングしている	北東側が32cm低く、両端が上部壁面に対し、オーバーハング気味である	北東側が12cm低い
遺物		なし	なし	なし
図版		10	10	10
写真図版		5	5	5
備考				

遺構名		４号陥し穴状遺構	５号陥し穴状遺構	６号陥し穴状遺構
位置(グリッド)		Ⅶ E１g・１h	Ⅵ E10j	Ⅳ D10b・V D１b
検出状況(層位)		B－Ⅶ層	B－Ⅶ層、北端部攪乱により消失	A－Ⅵ
重複遺構		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	V字状	瓢箪形	Y字状
規模(cm)	開口部径	334×37	347×50	304×95
	底部径	359×14	360×9	344×36
	深さ	100	120	79
長軸方向		N－86°－E	N－40°－E	N－73°－W
堆積土		上位は黒色シルト、中位は黒褐色シルト、下位は褐色と黒色シルトを主体とする層	全体に黒色シルト主体で下位に明黄褐色シルトを含む	全体に黒色シルト主体で中～下位ににぶい明黄褐色シルトが混じる
底面の特徴		凹凸のため５～12cm程の高低差はあるが、傾斜はなく平坦に近く、東側はオーバーハングしている	北東側が72cm低く、南西側はオーバーハングしている	北東側が36cm低く、南西側はオーバーハングしている
遺物		なし	なし	なし
図版		11	11	12
写真図版		5	6	6
備考				

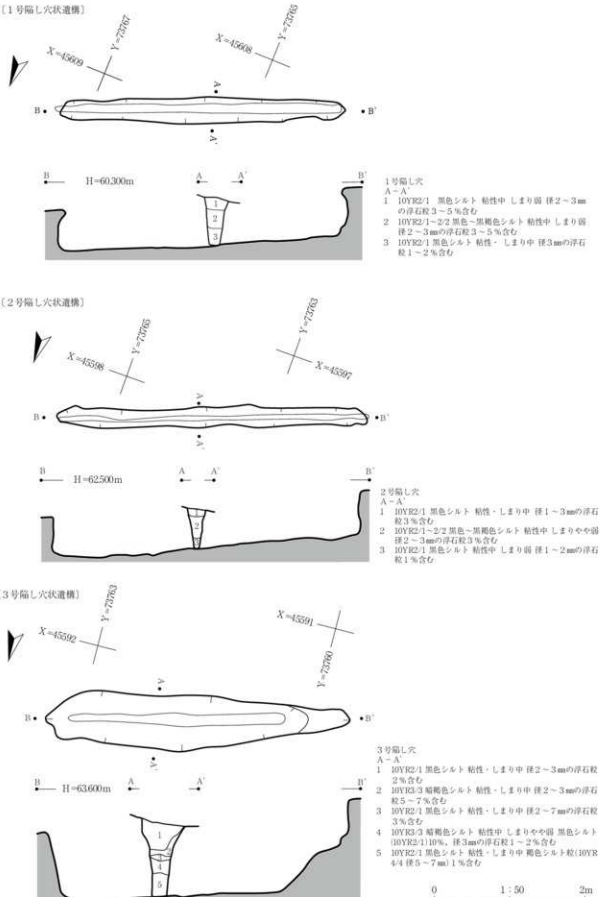
遺構名		7号隠し穴状遺構	8号隠し穴状遺構	9号隠し穴状遺構
位置(グリッド)		ⅢＣ９ｈ・10ｈ	ⅣＣ10ｂ	ⅣＤ１ｄ・１ｅ
検出状況(層位)		Ａ－Ⅵ	Ａ－Ⅵ	Ａ－Ⅵ
重複遺構		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	Ｖ字状	Ｖ字状	Ｙ字状
規模(cm)	開口部径	373×41	300×40	332×36
	底部径	359×12	334×17	360×8
	深さ	68	56	77
長軸方向		Ｎ－39°－Ｅ	Ｎ－78°－Ｅ	Ｎ－48°－Ｅ
堆積土		全体に黒色シルトを主体とする	上・下位は黒色シルト、中位は黒褐色シルトを主体とする	上・中位は黒～黒褐色シルト、下位は淡黄色シルト混じりの褐灰色シルトを主とする
底面の特徴		緩い凹凸はあるが、ほぼ平坦で高低差はない	緩い凹凸はあるが、ほぼ平坦で高低差はなく、両端がオーバーハングしている	緩い凹凸があり、南西側が12cm低く両側がオーバーハングしている
遺物		なし	なし	なし
図版		12	12	13
写真図版		6	6	7
備考				

遺構名		10号隠し穴状遺構	11号隠し穴状遺構	12号隠し穴状遺構
位置(グリッド)		ⅢＤ10ｈ	ⅣＤ１ｆ・１ｇ	ⅣＤ７ｊ
検出状況(層位)		Ａ－Ⅵ	Ａ－Ⅵ	Ａ－Ⅵ
重複遺構		なし	なし	重複遺構はないが、遺構の一部が攪乱により消失している
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	Ｖ字状	Ｖ字状	Ｖ字状
規模(cm)	開口部径	282×24	382×42	(187)×52
	底部径	268×9	347×12	397×18
	深さ	75	80	94
長軸方向		Ｎ－33°－Ｗ	Ｎ－52°－Ｅ	Ｎ－55°－Ｅ
堆積土		上位は黒褐色シルト、中～下位は明黄褐色シルトおよび浮石粒を伴う黒～暗褐色シルト層が堆積する	上位は黒色シルト、中～下位はにぶい黄橙色シルトおよび浮石粒を伴う黒褐色シルト層が堆積する	上位に浅黄橙色シルト混じりの黒褐色シルト、中位は黒～黒褐色シルト、下位は明黄褐色砂質シルトと黒色シルトが堆積する
底面の特徴		凹凸があり、南西側が19cm低い	凹凸があり、中央部付近がやや低く両端と19cmの高低差がある	中央部付近がやや低く、両端と13cmの高低差があり、両端はオーバーハングしている
遺物		なし	なし	なし
図版		13	13	14
写真図版		7	7	7
備考				

＊（　）は残存値

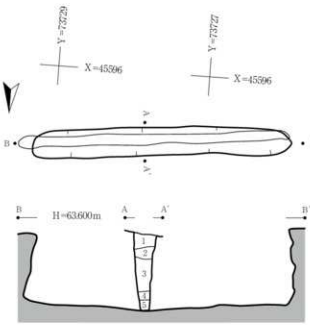
遺構名		13号陥し穴状遺構	14号陥し穴状遺構	15号陥し穴状遺構
位置(グリッド)		ⅣＤ６ｈ・６ｉ	ⅣＤ７ｊ	ⅣＤ４ｇ・４ｈ
検出状況(層位)		Ａ－Ⅵ	Ａ－Ⅵ	Ａ－Ⅵ
重複遺構		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	U字状	Y字状	Y字状
規模(cm)	開口部径	310×19	340×40	420×56
	底部径	310×11	332×8	460×13
	深さ	46	98	74
長軸方向		N－65°－E	N－22°－E	N－71°－W
堆積土		上～中位は黒色シルト、下位はに示い黄橙色シルト混じりの黒褐色シルトが堆積	上・下位は黒～黒褐色シルト、中位は暗褐色シルトを主体とする	黒～黒褐色シルトを主とし、黒褐色シルト層に浮石粒が多く混入している
底面の特徴		緩い凹凸があり、傾斜はないが、南西側が低い	緩い凹凸はあるが、ほぼ平坦で高低差はなく、両端がオーバーハングしている	凹凸があり、北西側が15cm低く、両側がオーバーハングしている
遺物		なし	なし	なし
図版		14	14	15
写真図版		8	8	8
備考				

遺構名		16号陥し穴状遺構	17号陥し穴状遺構
位置(グリッド)		ⅣＤ３ｇ・３ｈ	ⅤＤ１ｄ・１ｅ
検出状況(層位)		Ａ－Ⅵ	Ａ－Ⅵ
重複遺構		なし	遺構の一部は平成29年度に67号陥し穴状遺構として調査
形状	平面形	溝状	溝状
	断面	Y字状	Y字状
規模(cm)	開口部径	334×51	315×49
	底部径	355×15	304×13
	深さ	94	93
長軸方向		N－87°－W	N－85°－W
堆積土		黒色シルト、黒褐色シルト、暗褐色シルト層で構成される	上～中位は黒褐色シルト、下位は黒色シルトを主とする層が堆積する
底面の特徴		中央から東側が傾斜し、東端は西側の底面よりも25cm高い	緩い凹凸はあるが傾斜はなく、高低差は６cm以内
遺物		なし	なし
図版		15	15
写真図版		8	9
備考			



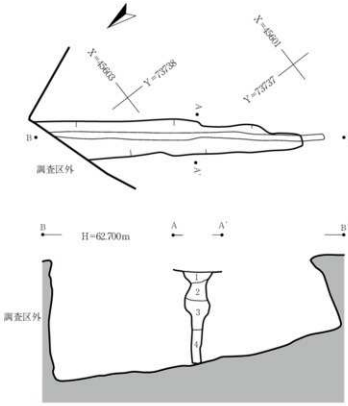
第10図　1～3号陥し穴状遺構

〔4号陥し穴状遺構〕



4号陥し穴
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 壁際に暗褐色シルト(10YR3/4)径1～3mmの浮石粒1～2％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)ブロックで2％，径1～3mmの浮石粒が層全体に1～2％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 径1～3mmの浮石粒全体に1～2％含む
4　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 1％含む

〔5号陥し穴状遺構〕

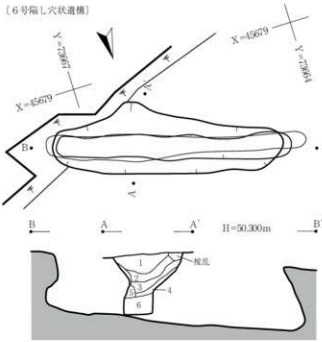


5号陥し穴
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3)20%，径1～2mmの浮石粒微量含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3)20～30%，褐色シルト(10YR4/4)ブロックで2%，径2～3mmの浮石粒が層全体に1%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径1～2mmの浮石粒1%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)ブロックで2%含む

0　1：50　2m

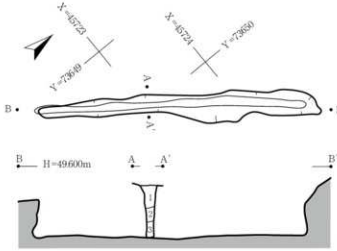
第11図　4・5号陥し穴状遺構

［6号陥し穴状遺構］



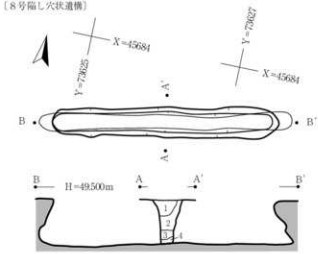
6号陥し穴
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 層の下位中心に明黄褐色浮石粒(10YR6/6 径1～3㎜)1％未満含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 層全体に明黄褐色浮石粒(10YR6/6 径2～4㎜)2～3％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強 しまり強 明黄褐色浮石粒(10YR6/6 径1～5㎜)1～2％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色浮石粒(10YR6/6 径2～5㎜)7～10％含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強 しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)15％混じる(埋戻し土)、明黄褐色浮石粒(10YR6/6 径2～3㎜)5％含む
6　10YR2/3黒褐色シルト 粘性中 しまり強 黄褐色シルト(10YR4/4)10％、にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)10％混合

［7号陥し穴状遺構］



7号陥し穴
A－A'
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや弱 暗褐色シルト(10YR3/4)5％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
3　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性中 しまり強

［8号陥し穴状遺構］

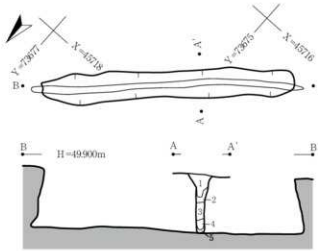


8号陥し穴
A－A'
1　10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまり強 径2～3㎜の浮石粒(10YR7/6)3～5％含む
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強 しまり強 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4)2～5㎜の粒状で1～2％含む
3　10YR3/2黒褐色シルト 粘性・しまり強
4　10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまりやや強

0　1：50　2m

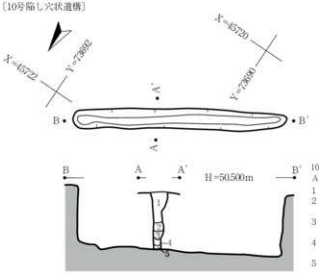
第12図　6～8号陥し穴状遺構

〔9号陥し穴状遺構〕



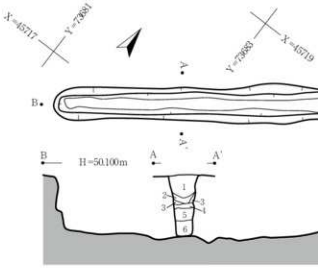
9号陥し穴
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや強 径1～2mmの浮石粒1～2％含む
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや弱 径1～2mmの浮石粒10％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや強 径1～2mmの浮石粒2～3％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりやや強 径1～2mmの浮石粒2～3％含む
5　10YR4/1 褐灰色シルト 粘性中 しまりやや強 淡黄色シルト(25Y8/3)10～15％含む

〔10号陥し穴状遺構〕



10号陥し穴
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや強
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりやや強 径1～2mm浮石粒(10YR8/3)5～7％含む
3　10YR3/3 明褐色シルト 粘性中 しまりやや強 径1～3mmの浮石粒(10YR8/3)20％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりやや強 明黄褐色シルト(10YR7/6)5～7％混じる
5　10YR3/3 明褐色シルト 粘性中 しまりやや強 明黄褐色シルト(10YR7/6)20～30％混じる

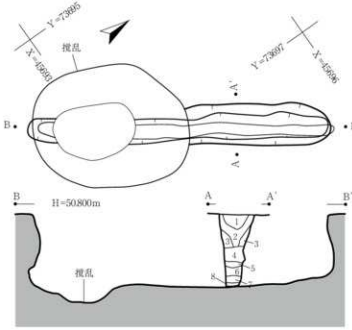
〔11号陥し穴状遺構〕



11号陥し穴
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりやや強 径2～3mmの浮石粒(10YR7/6)ブロック状に1％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや弱 径2mmの浮石粒(10YR7/6)を全体に2～3％含む
3　10YR4/4 褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強(崩壊落土)
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまりやや強 径2mmの浮石粒(10YR7/6)1％未満含む
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強 にぶい黄橙色シルト粒(10YR7/4 径5～7mm)1％含む
6　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまりやや強 にぶい黄橙色シルト粒(10YR7/4 径5～10mm)10～15％含む

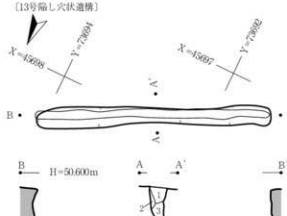
第13図　9～11号陥し穴状遺構

〔12号陥し穴状遺構〕



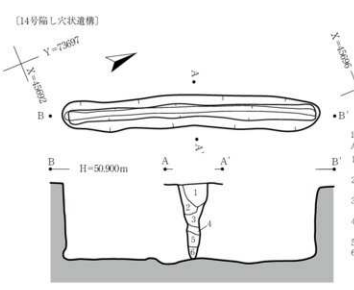
12号陥し穴
A－A'
1　10YR3/1 黒褐色シルト　粘性・しまりやや強 浅黄橙色シルト(10YR8/4)20%含む
2　10YR2/1 黒色シルト　粘性やや弱 しまりやや強 径3mmの浮石粒(10YR7/4)1%未満含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト　粘性・しまりや中 径2～5mmの浮石粒(10YR7/4)1%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりやや強
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや強
6　10YR2/1　黒色シルト　粘性・しまり中　径3～7mmの浮石粒(10YR7/6)1%含む
7　10YR6/6 明黄褐色 砂質シルト(八ヶ火山灰？)粘性弱 しまり強
8　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性やや強 しまりやや弱 明黄褐色砂質シルト(10YR6/6)2～3%含む

〔13号陥し穴状遺構〕



13号陥し穴
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト　粘性やや弱 しまりやや強 径2～3mmの浮石粒(10YR7/6)1%含む
2　10YR3/4 暗褐色シルト　粘性・しまりやや強
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径3～4mmのにぶい黄橙色シルト(10YR7/4)1%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや強　にぶい黄橙色シルト(10YR7/4)5～7%含む

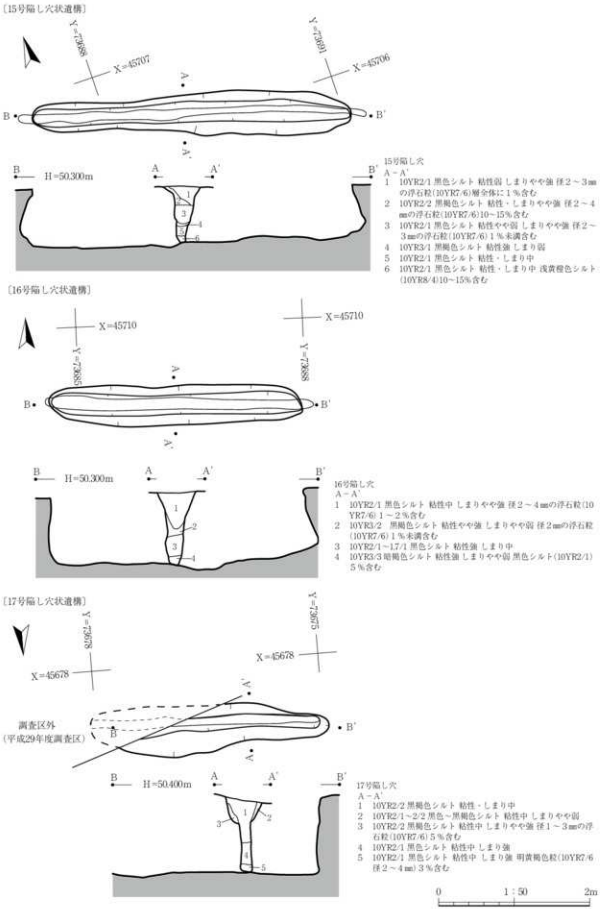
〔14号陥し穴状遺構〕



14号陥し穴
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり強 径2～3mmの浮石粒(10YR7/6)1%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径2～3mmの浮石粒(10YR7/6)5%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強 しまり中 径2mmの浮石粒(10YR7/6)1%未満含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまりやや強 浅黄橙色シルト(10YR8/4)ブロックで10%含む
5　10GY2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
6　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性強 しまり中

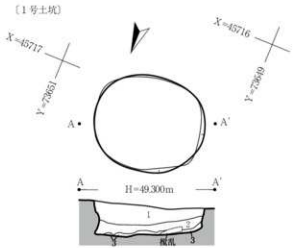
0　1：50　2m

第14図　12～14号陥し穴状遺構



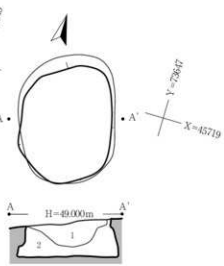
第15図　15～17号陥し穴状遺構

〔1号土坑〕



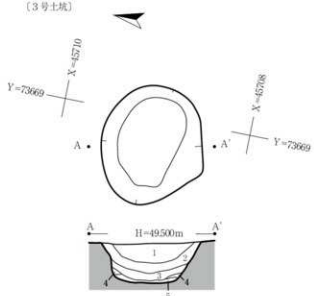
1号土坑
A－A'
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性中 しまり強
2　10YR2/1～2/2 黒～黒褐色シルト 粘性中 しまり強
3　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性弱 しまり強 礫層土10～15%含む

〔2号土坑〕



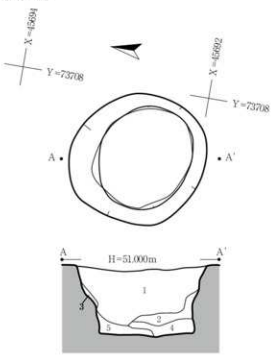
2号土坑
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや強
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや強 黒褐色シルト(10YR3/2)20%、混在褐色砂(10 YR4/4)10%が互層となっている

〔3号土坑〕

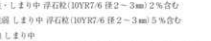


3号土坑
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 浅黄橙色粒(10YR8/4 径1～2mm)1%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや弱 径2～3mmの浮石粒(10YR7/6)3～5%含む
3　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり中
4　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり強(壁崩落土)
5　10YR2/1～1.7/1 黒色シルト 粘性やや強 しまり中

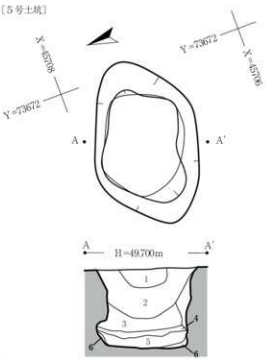
〔4号土坑〕



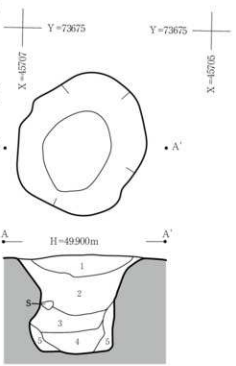
4号土坑
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径2～3mm)2～3%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 浮石粒(10YR7/6 径2～3mm)2%含む
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 浮石粒(10YR7/6 径2～3mm)5%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 浮石粒(10YR7/6 径3～5mm)1～2%含む



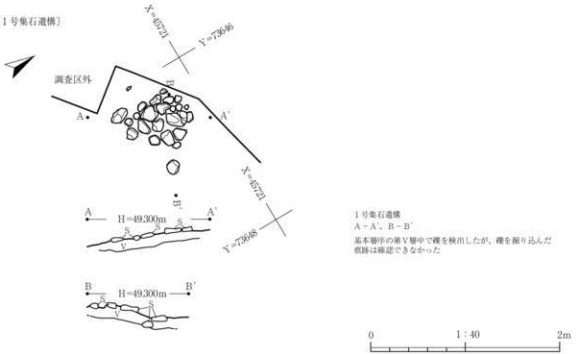
第16図　1～4号土坑



5号土坑
A－A'
1　10YR7/6 明黄褐色浮石粒 粘性弱 しまり強 黒色シルト(10YR2/1)５％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 にぶい黄橙色粘土質シルト(10YR6/4)格状に３％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)５～７％含む
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)径５～10mmの粒状で１～２％含む
6　10YR6/4 浅黄橙色粘土 粘性・しまり強 黒色シルト(10YR2/1)格状に３～５％含む

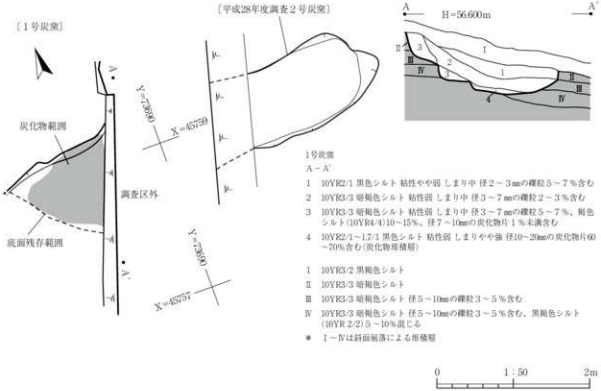


6号土坑
A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色粒(10YR7/6 径３～４mm)40％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)ブロック状に１％含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりやや強 灰黄褐色粘土質シルト(10YR5/2)ブロック状に１％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 灰黄褐色粘土質シルト(10YR5/2)格状に10～15％含む



1号集石遺構
A－A'，B－B'
基本層序の第Ⅴ層中で礫を検出したが、礫を掘り込んだ痕跡は確認できなかった

第17図　５・６号土抗、１号集石遺構



第18図　1号炭窯

3　出　土　遺　物

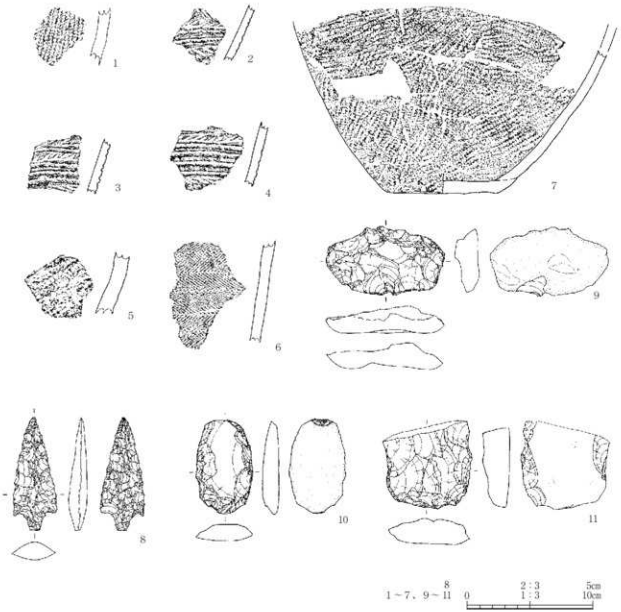
今回の調査で出土した遺物は縄文土器 1421.9 g、石器 223.68 g で、このうち遺構内から出土したのは縄文土器 1 点のみで、他は全て遺構外からの出土である。図化・掲載したものは計 11 点で内訳は縄文土器 7 点、石器 4 点である。

（1）土　　器

1 は 3 号土坑から出土した深鉢の胴部破片で器面に組縄縄文が施文されており、前期前葉と推定される。2 ～ 4 は深鉢の口縁部破片で沈線文・押引文が施文されている。早期中葉の明神裏Ⅲ式に比定されるもので、3 ・ 4 は同一個体と考えられる。5 は深鉢の口縁部破片で、器体表面は剥落による欠損や摩滅のためやや不明瞭ではあるが原体押圧とこれによる渦巻き状のモチーフが一部確認できる。時期は前期初頭～前葉頃と推測される。6 は深鉢の胴部破片で結束羽状縄文が施されている。7 は粗製の深鉢の底部で器面内外に煤が付着している。文様は縄文のみで時期は後期以降と考えられる。

（2）石　　器

8 は石鏃で基部は凹型で抉入がある。9 は片面に自然面の残る石核でいずれも石材に頁岩を使用している。10・11 は石斧類でいずれも片面に自然面を残し、外縁に剥離整形が施されている。石材には 10 が砂岩、11 は花崗閃緑斑岩を使用している。



第19図　出土遺物

第３表　縄文土器観察表

No	出土地点・層位	器種	部位	外面文様等	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	図版	写図
1	３号土坑　埋土	深鉢	胴部	組縄縄文	－	－	－		19	12
2	ⅣＣ２ｆ Ⅴ層	深鉢	口縁～胴部	平行沈線文、押引沈線	－	－	－	外面に煤付着	19	12
3	ⅣＣ２ｇ Ⅴ層	深鉢	口縁～胴部	平行沈線文、押引沈線	－	－	－	外面に煤付着	19	12
4	ⅣＣ２ｇ Ⅴ層	深鉢	口縁～胴部	平行沈線文、押引沈線	－	－	－	外面に煤付着	19	12
5	ⅤＣ１ｈ Ⅴ層	深鉢	口縁部	原体押圧による渦巻き状のモチーフ	－	－	－		19	12
6	ⅤＣ２ｂ Ⅴ層	深鉢	胴部	結束第１種・第２種、羽状縄文	－	－	－		19	12
7	12号陥し穴状遺構上面の掘乱内	深鉢	胴～底部	ＬＲ縄文	－	<131>	84	内面に煤付着	19	12

第４表　石器観察表

No	出土地点・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考	図版	写図
8	ⅣＣ９ｇトレンチ	石鏃	4.4	1.7	0.7	3.89	頁岩　中生代　北上山地		19	12
9	ⅢＤ４ｇ　Ⅱ層	石核	5.2	9.1	1.8	94.61	頁岩　中生代　北上山地		19	12
10	ⅢＤ４ｇ　Ⅱ層	石斧	7.2	4.4	1.3	54.90	砂岩　中生代　北上山地		19	12
11	ⅣＤ２ｇ　Ⅱ層	石斧	<63>	6.9	2.0	143.64	花崗閃緑岩　中生代白亜紀　北上山地		19	12

◆表中＜ ＞は残存値。

Ⅴ　総　　括

1　陥し穴状遺構について

今回の調査で溝状の陥し穴状遺構 17 基が見つかった。規模は開口部の長軸が最大のもので 420 ㎝、最小のもので 282 ㎝、深さは最深で 120 ㎝を測り、主軸方位は東西軸の割合が多く、北側調査区の標高 51 m以下の緩斜面部においては等高線と直交～斜方向、南側調査区の標高 60 m以上の急斜面においては５基中、４基が等高線と平行にそれぞれ配置される。また北側調査区においては９・11 ～ 16 号、南側調査区においては１～３号の各陥し穴状遺構が列状に配置されている。時期に関しては、12 号陥し穴状遺構において重複する風倒木痕による攪乱内から縄文時代後期以降の土器片が出土し、これに切られていることから、これよりも古い時期と判明しているが、他の同遺構についての詳細は不明である。

2　遺跡全体について

調査の結果、過去に実施された調査同様に縄文時代の長期間に亘り、狩猟場として利用されていた場所であることが明らかとなった。住施設等は発見されていないため、集落跡としての活用はなかったと考えられる。遺物は今回の調査で縄文時代早期中葉～後期頃の遺物が少量出土した。平成 28 ～ 30 年度の調査では縄文時代早期中葉～弥生時代後期まで長期に亘り、土器が出土していることから、狩猟場としての活用時期についてはこの範疇にあると考えられる。

引用・参考文献

高橋亜貴子：1992「東北地方縄文時代前期前葉組縄縄文について」「東北文化論のための先史学歴史学論集」加藤稔先生還暦記念 p593 ～ 632

高橋亜貴子：1993「縄文時代前期に認められる組縄縄文」『月刊考古学ジャーナル No.357』ニューサイエンス社 p36 ～ 41

青森県教育委員会：1996『畑内遺跡Ⅲ発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 187 集

青森県教育委員会：1999『畑内遺跡Ⅴ発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 262 集

岩埋文：2017『越田松長根Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 666 集

岩埋文：2020『サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 714 集

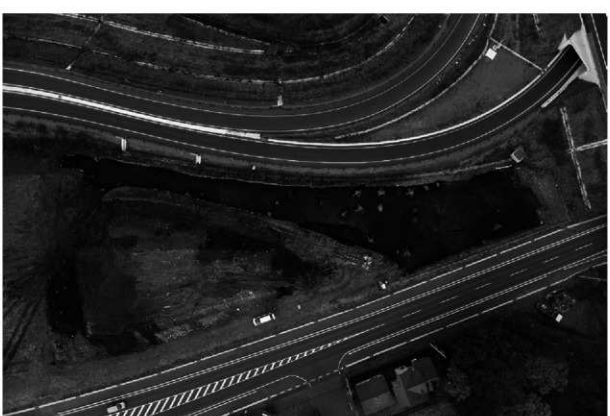
岩埋文：2021『鹿嶺浜Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 727 集

岩手県教育委員会：2018「岩手県内遺跡発掘調査報告書」（平成 28 年度 復興関係）岩手県文化財調査報告書第 146 集

滝沢村埋蔵文化財センター：2008『仏沢Ⅲ遺跡発掘調査報告書』滝沢村埋蔵文化財センター調査報告書第３集

写　真　図　版

令和３年度調査区遠景・W→



令和３年度調査区全景・上が北

写真図版１　航空写真１

令和４年度調査区遠景・Ｗ→

令和４年度調査区遠景・Ｓ→

写真図版２　航空写真２

令和４年度調査区北側全景・上が北

令和４年度調査区南側全景・上が北

写真図版３　航空写真３

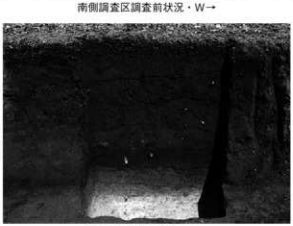
北側調査区調査前状況・S→

北側調査区調査前状況・W→

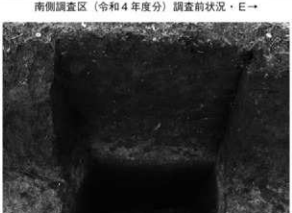
北側調査区北端部調査前状況・S→

南側調査区調査前状況・W→

南側調査区（令和４年度分）調査前状況・E→



基本層序Ａ地点断面・S→



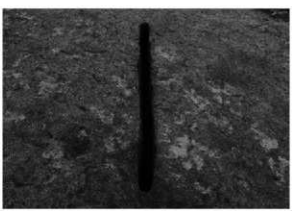
基本層序Ｂ地点断面・N→

北側調査区西側壁断面・E→

写真図版４　調査区、基本層序

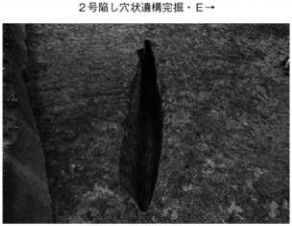
1号陥し穴状遺構完掘・E→

1号陥し穴状遺構断面・E→

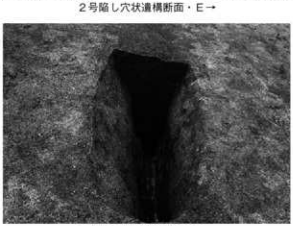


2号陥し穴状遺構完掘・E→

2号陥し穴状遺構断面・E→



3号陥し穴状遺構完掘・E→



3号陥し穴状遺構断面・E→

4号陥し穴状遺構完掘・E→

4号陥し穴状遺構断面・E→

写真図版５　１～４号陥し穴状遺構

５号陥し穴状遺構完掘・ＮＥ→

５号陥し穴状遺構断面・ＮＥ→

６号陥し穴状遺構完掘・ＳＷ→

６号陥し穴状遺構断面・Ｗ→

７号陥し穴状遺構完掘・ＳＷ→

７号陥し穴状遺構断面・ＳＷ→

８号陥し穴状遺構完掘・Ｅ→

８号陥し穴状遺構断面・Ｅ→

写真図版６　５～８号陥し穴状遺構

9号陥し穴状遺構完掘・ＳＷ→

9号陥し穴状遺構断面・ＳＷ→

10号陥し穴状遺構完掘・ＳＷ→

10号陥し穴状遺構断面・ＳＷ→

11号陥し穴状遺構完掘・ＳＷ→

11号陥し穴状遺構断面・ＳＷ→

12号陥し穴状遺構完掘・ＳＷ→

12号陥し穴状遺構断面・ＮＥ→

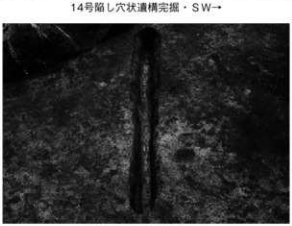
写真図版７　９～12号陥し穴状遺構

13号陥し穴状遺構完掘・ＳＷ→

13号陥し穴状遺構断面・ＳＷ→

14号陥し穴状遺構完掘・ＳＷ→

14号陥し穴状遺構断面・ＳＷ→



15号陥し穴状遺構完掘・Ｗ→

15号陥し穴状遺構断面・ＮＷ→

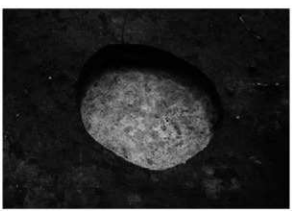
16号陥し穴状遺構完掘・Ｗ→

16号陥し穴状遺構断面・Ｗ→

写真図版８　13～16号陥し穴状遺構

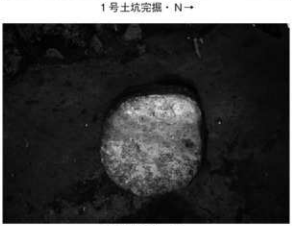
17号陥し穴状遺構完掘・W→

17号陥し穴状遺構断面・W→

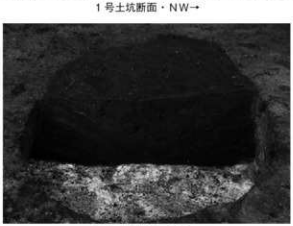


１号土坑完掘・N→

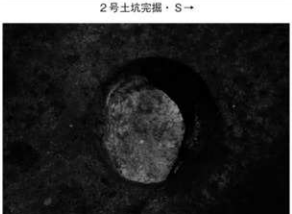
１号土坑断面・NW→



２号土坑完掘・S→



２号土坑断面・SE→



３号土坑完掘・W→

３号土坑断面・W→

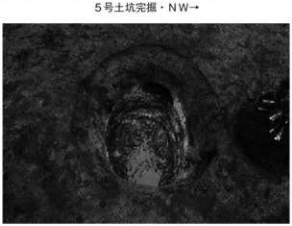
写真図版９　17号陥し穴状遺構、１～３号土坑

4号土坑完掘・W→

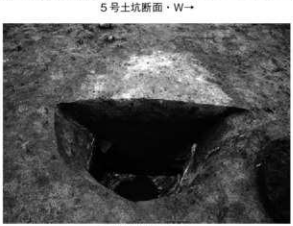
4号土坑断面・W→

5号土坑完掘・NW→

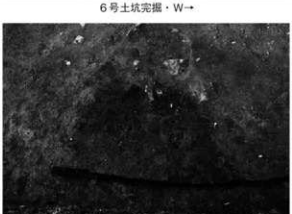
5号土坑断面・W→



6号土坑完掘・W→



6号土坑断面・W→



1号炭窯全景・SE→

1号炭窯断面・W→

写真図版10　4～6号土坑、1号炭窯

1号集石断面・NW→

1号集石断面・SE→

1号集石断面・SW→

1号集石完掘（礫除去後）・SE→

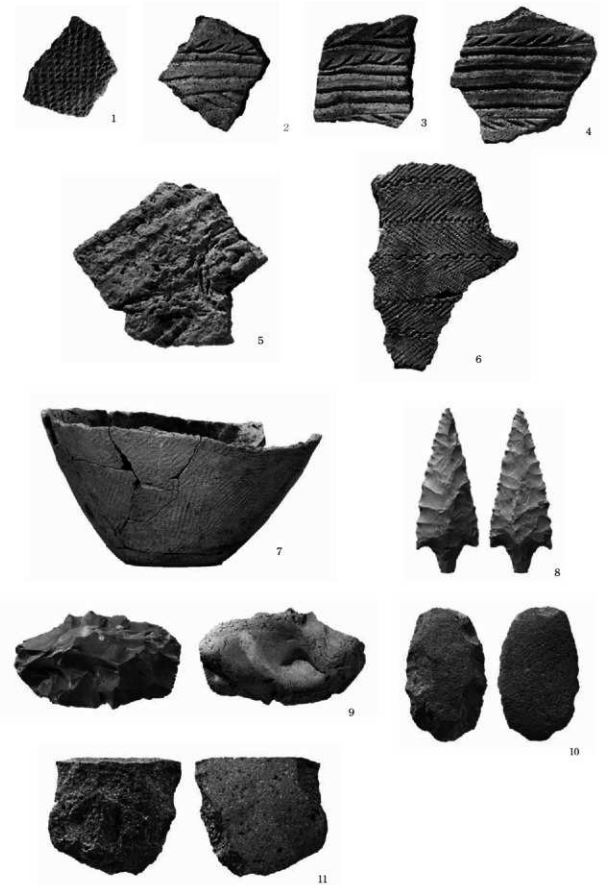
南側調査区西側完掘・SW→

南側調査区東側作業風景・W→

北側調査区作業風景・W→

陥し穴状遺構掘削状況・W→

写真図版11　1号集石遺構、調査区、作業風景



写真図版12　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	さんにやさんいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第743集
編著者名	溜 浩二郎
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　ＴＥＬ（019）638-9001
発行年月日	西暦2024年３月８日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
サンニヤⅢ遺跡	岩手県九戸郡 洋野町種市 第25地割40番 地ほか	03507	IF48-2250	40度 24分 26秒	141度 42分 09秒	2021.10.05 ～ 2021.12.15 2022.4.07 ～ 2022.08.10	7,124㎡	三陸沿岸道路 建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
サンニヤⅢ遺跡	狩猟場	縄文	陥し穴状遺構 17基 土坑 6基 集石遺構 1基	縄文土器、石器	
	その他	近世	炭窯 1基		

要約	調査の結果、今回の調査区は過去に実施された調査成果と同様、縄文時代の狩猟場の一部と考えられる。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第743集

サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印刷　令和６年３月１日
発行　令和６年３月８日

編集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185
電　話（019）638-9001

発行　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029　岩手県宮古市藤の川４番１号
電　話（0193）62-1711

（公財）岩手県文化振興事業団
〒020-0023　岩手県盛岡市内丸 13 番１号
電話（019）654-2235

印刷　株式会社橋本印刷
〒020-0061　岩手県盛岡市北山一丁目８-29
電話（019）652-1354

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2024